口永良部島の火山活動解説資料（平成 20 年３月）

福岡管区気象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方気象台

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は見られません。
火口内で噴気や火山ガスの噴出が見られ、火口内等では警戒が必要です。
１月 25 日に噴火警戒レベル２(火口周辺規制)をレベル１(平常)に引き下げました。その後、予警報事項に変更ありません。

○ ３月の活動概況

・噴気活動

新岳（しんだけ）・古岳（ふるだけ）の噴気に特段の変化はありません。

・地震、微動活動（図２、図３）

火山性地震の発生は一時的な多発も認められず、落ち着いた状態で経過しました。月回数は 150 回（２月：106 回）でした。火山性地震の震源は、新岳火口直下のごく浅い所に分布しました。

火山性微動の月回数は３回（２月はなし）で少ない状態が続きました。

・地殻変動（図４、図５）

GPS 連続観測では、火山活動に起因するとみられる変化は観測されませんでした。

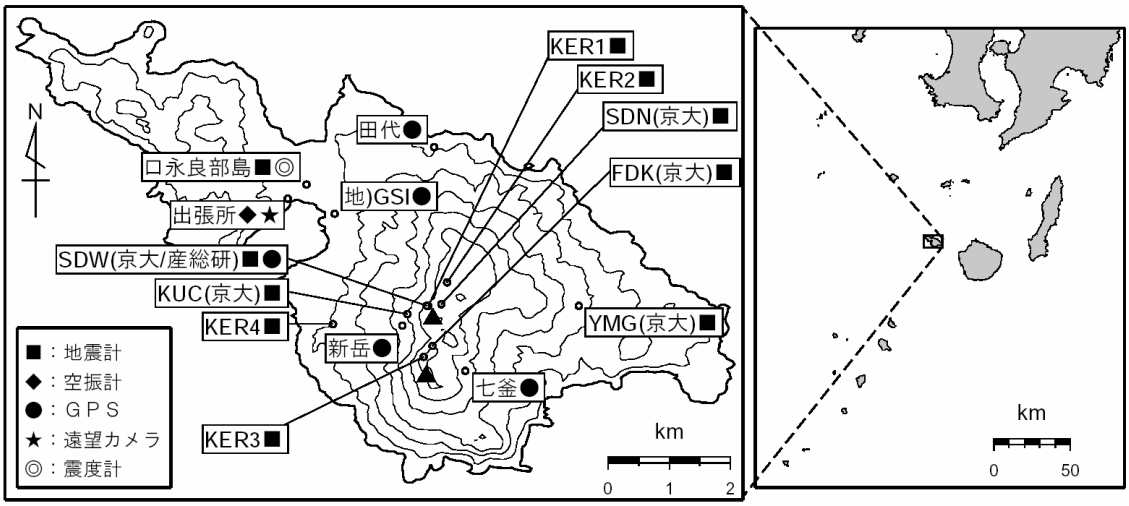

図１　口永良部島　観測点配置図

※この資料の作成に当たっては、気象庁のデータの他、国土地理院、京都大学、独立行政法人産業技術総合研究所のデータも利用して作成しています。
地図の作成に当たっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ(標高)』を使用しました(承認番号：平 17 総使、第 503 号)。
この火山活動解説資料は、気象庁ホームページ(http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html)、福岡管区気象台ホームページ(http://www.fukuoka-jma.go.jp/)でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料(平成 20 年４月分)は平成 20 年５月９日に発表予定です。

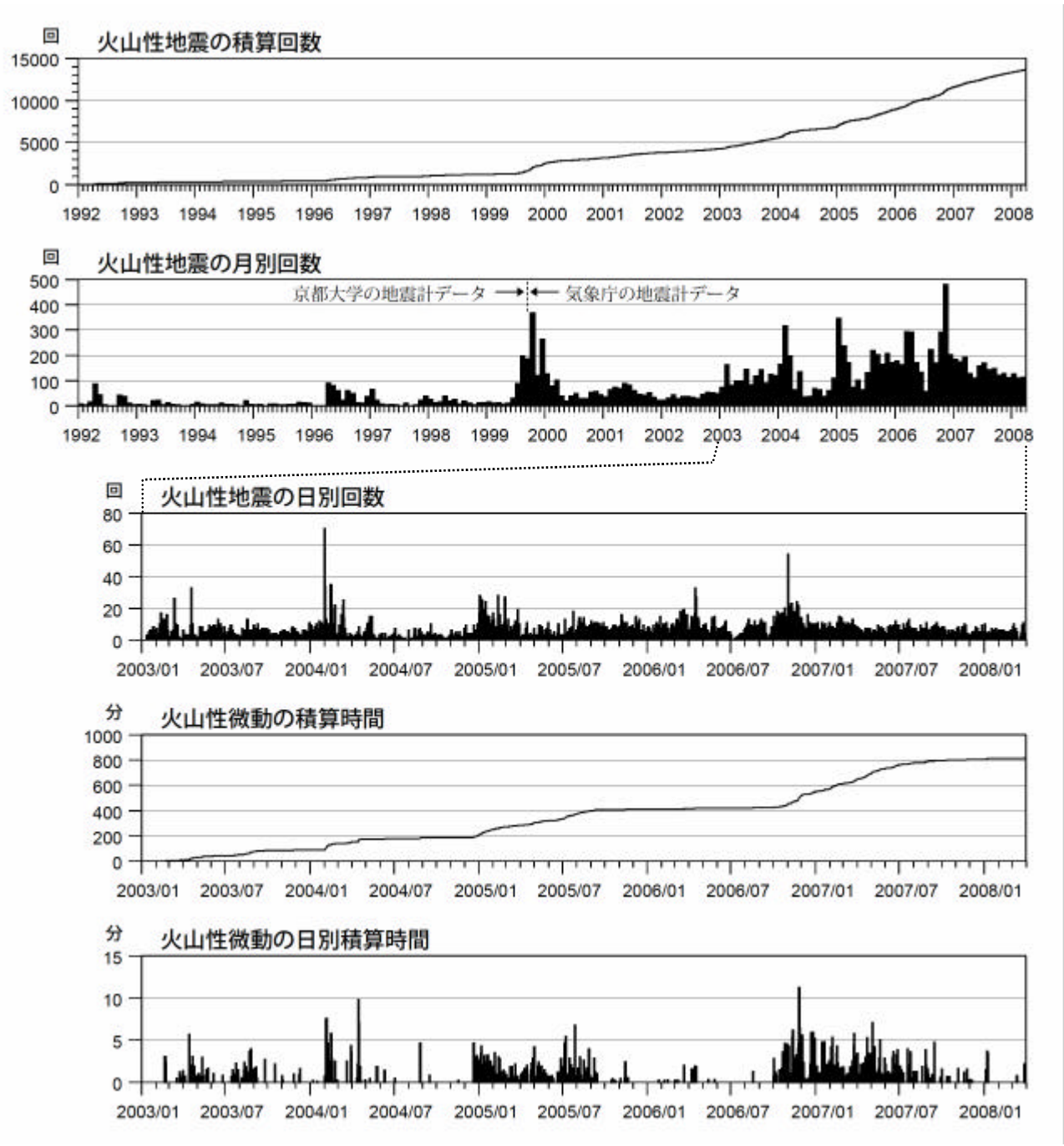

図２※　口永良部島　火山性地震・微動活動経過図(1992 年１月１日～2008 年３月 31 日)
・火山性地震は 2007 年９月頃から、わずかに減少傾向が見られます。
・火山性微動は 2007 年９月頃から減少傾向を示し、継続時間も短くなっています。

＊1992 年１月１日～1999 年９月 12 日及び 2005 年 12 月 15～28 日間は京都大学のデータを使用しました。
＊2002 年 12 月 22 日～2003 年１月 11 日まで地震計 KER１の機器障害のため欠測しました。また、2005 年７月９日～９月 18 日、2005 年 11 月５日～12 月 14 日までは地震計 KER１の機器障害のため、地震計 KER３で回数を計数しました。

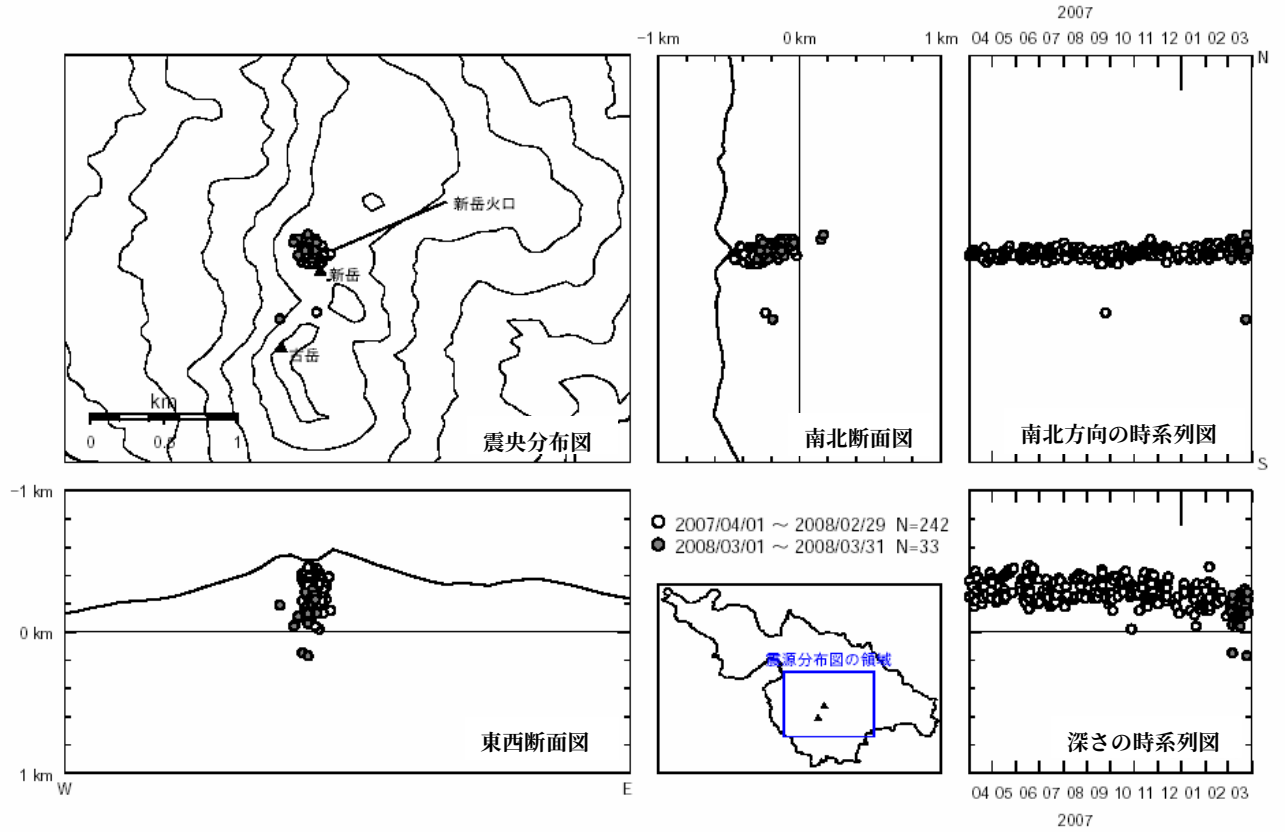

図３※　口永良部島　震源分布図(2007 年４月１日～2008 年３月 31 日)
火山性地震の震源は、新岳火口直下のごく浅い所に分布しました。

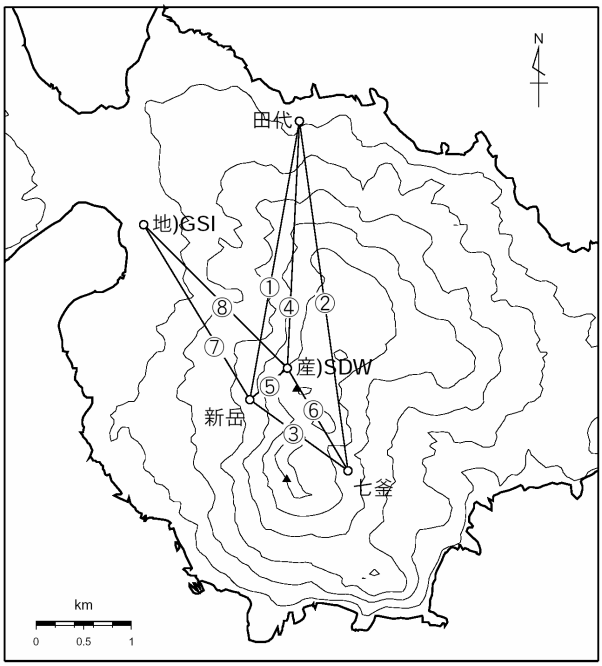

図４　口永良部島　GPS 連続観測基線図

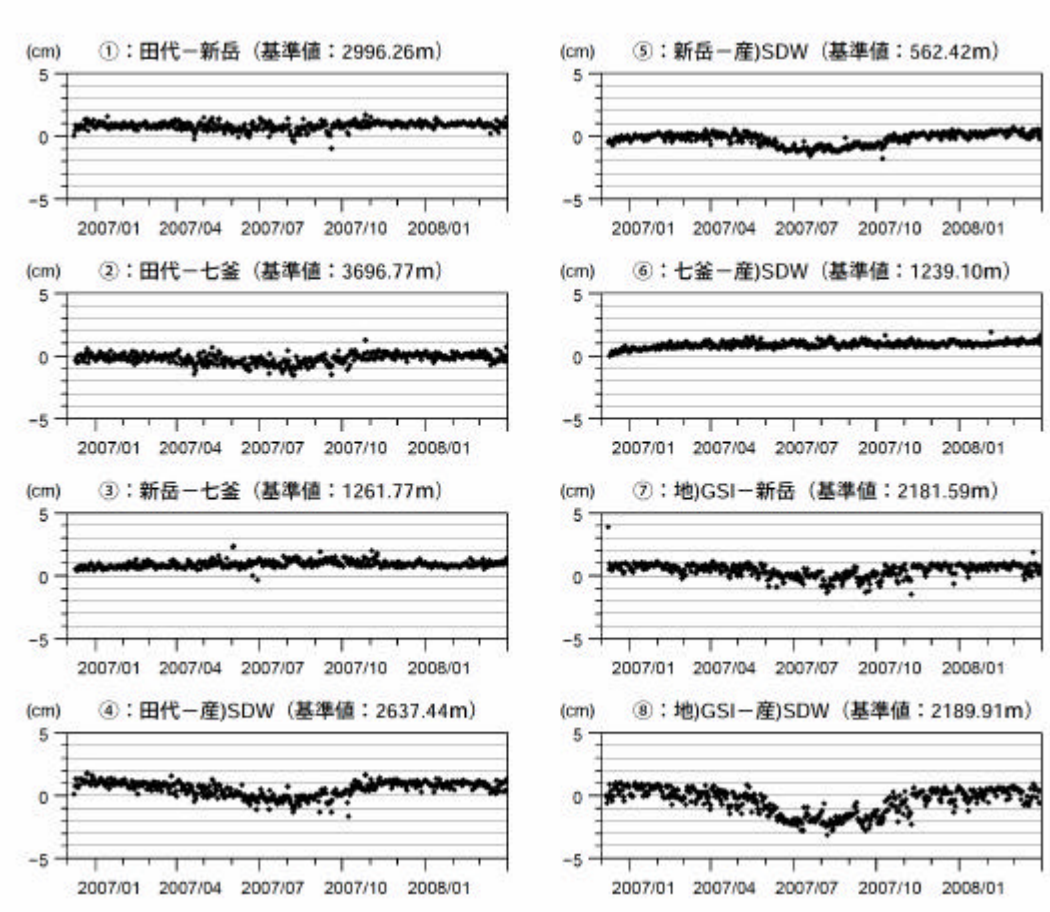

図５　口永良部島　GPS 連続観測による基線長変化(2006 年 12 月８日～2008 年３月 31 日)

火山活動に起因するとみられる変化はありませんでした。

この基線は図４の①～⑧に対応しています。